



JTRUST

2019年12月期第1四半期

決算説明資料

2019年8月

Jトラスト株式会社



2019年12月期

1. 第1四半期 連結決算概要
2. 第1四半期 セグメント別業績
3. 業績予想と進捗状況
4. 事業別 今後の展望について

**VTR:東南アジア金融事業（インドネシア）の現状と
今後の成長戦略**

- 決算期変更に伴い、当期は2019年4月から2019年12月までの9ヵ月となります。
- 2019年3月期に売却したハイライツ・エンタテインメント社の業績を非継続事業として分類しており、前年同期の「営業収益」「営業利益」及び「税前利益」も同様に分類して表示しております。
- 本資料に記載された将来情報などは資料作成時点での当社の認識、意見、判断又は予測であり、その実現を保証するものではありません。様々な要因により実際の業績や結果とは大きく異なる可能性があることをご承知おき下さい。
- 説明会および本資料は、当社をご理解いただくための情報提供を目的としたものであり、当社又は子会社が発行する有価証券への投資を勧誘するものではありません。
- 各ページに記載の数値は、原則として表示単位未満を切捨て表示しています。また表およびグラフ横に記載しております差異ならびに前年同期比等は、表示の億単位を用いて計算しております。

1. 連結決算概要

財務部 副部長
島村 圭一

日本金融事業

信用保証業務と債権買取回収業務が安定的に推移

韓国及びモンゴル金融事業

貸倒引当金繰入額の減少とNPL売却益などにより
営業利益通期計画進捗率76%

上記2事業が連結業績をけん引

➤ 前年同期比は増収減益

連結業績（前年同期比）

	Q1 FY03/2019 (2018/4/1~2018/6/30)	Q1 FY12/2019 (2019/4/1~2019/6/30)	差異
営業収益*	173億円	182億円	+9億円
営業利益*	8億円	4億円	-4億円
税引前利益*	19億円	1億円	-18億円
親会社の所有者に 帰属する当期利益	14億円	-1億円	-15億円

※ 営業収益・営業利益・税引前利益には非継続事業を差し引いた継続事業から生じた金額を表示しています。

➤ 総合エンターテインメント事業のM&Aにより収益が増加

セグメント別営業収益（前年同期比）

	Q1 FY03/2019 (2018/4/1~2018/6/30)	Q1 FY12/2019 (2019/4/1~2019/6/30)	差異
日本金融事業	23億円	23億円	-0億円
韓国及びモンゴル金融事業	101億円	97億円	-4億円
東南アジア金融事業	31億円	27億円	-4億円
投資事業	2億円	2億円	-0億円
非金融事業（エンタメ・不動産）	12億円	30億円	+18億円
その他の事業	2億円	1億円	-1億円
連結営業収益	173億円	182億円	+9億円

➤ 韓国及びモンゴル金融事業が東南アジア金融事業をカバー

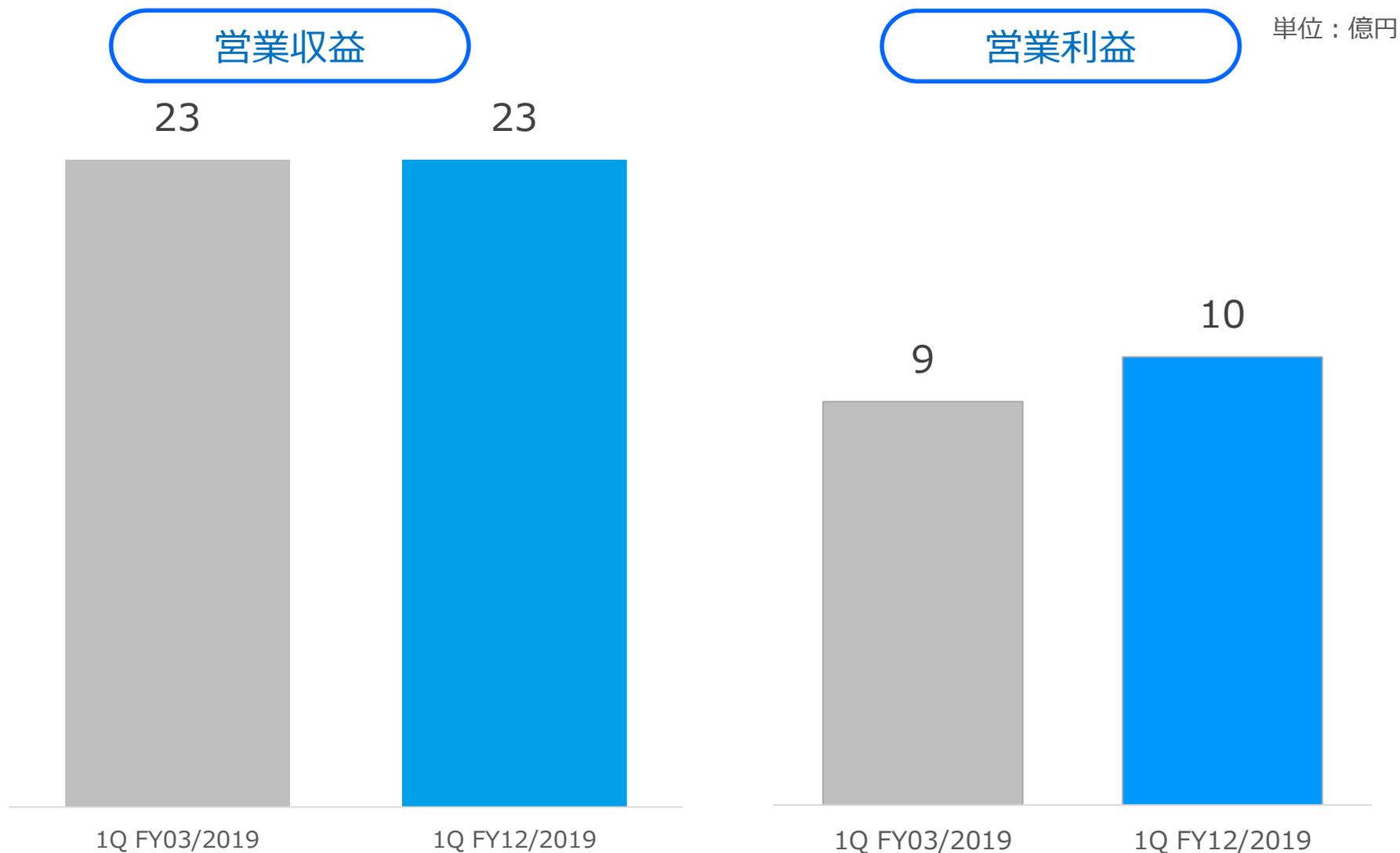
セグメント別営業利益（前年同期比）

	Q1 FY03/2019 (2018/4/1~2018/6/30)	Q1 FY12/2019 (2019/4/1~2019/6/30)	差異
日本金融事業	9億円	10億円	+1億円
韓国及びモンゴル金融事業	14億円	25億円	+11億円
東南アジア金融事業	-7億円	-18億円	-11億円
投資事業	1億円	-5億円	-6億円
非金融事業（エンタメ・不動産）	-0億円	0億円	0億円
その他の事業	-0億円	-1億円	-1億円
（調整額等）	-10億円	-6億円	+4億円
連結営業利益	8億円	4億円	-4億円

2. セグメント別業績

2-1. 日本金融事業

- 営業収益は安定的に推移
- 前期終盤から今期にかけて購入した債権からの回収金が利益に寄与



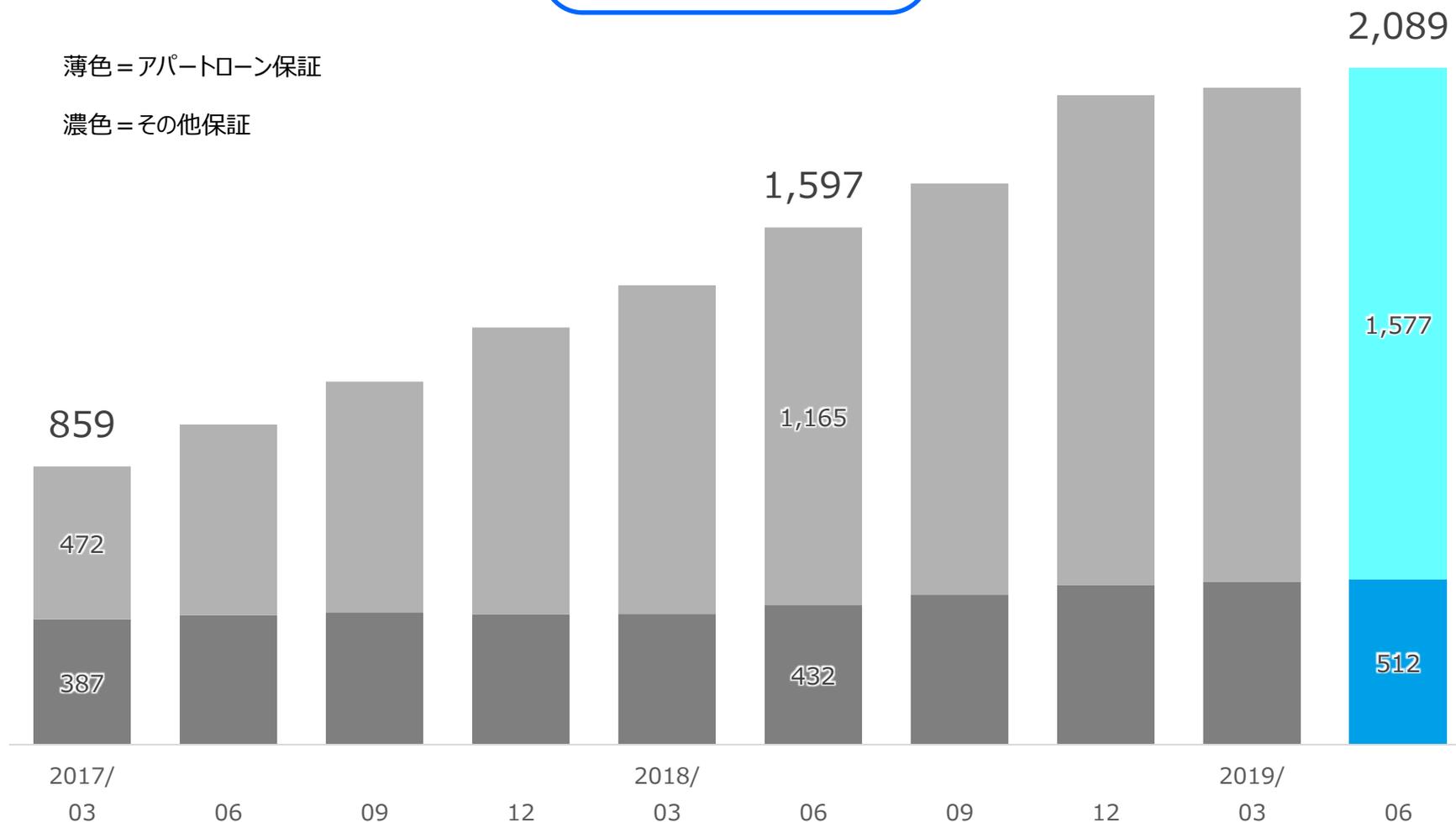
➤ 保証残高は前年同期比492億円増加

単位：億円

保証残高の推移

薄色 = アパートローン保証

濃色 = その他保証

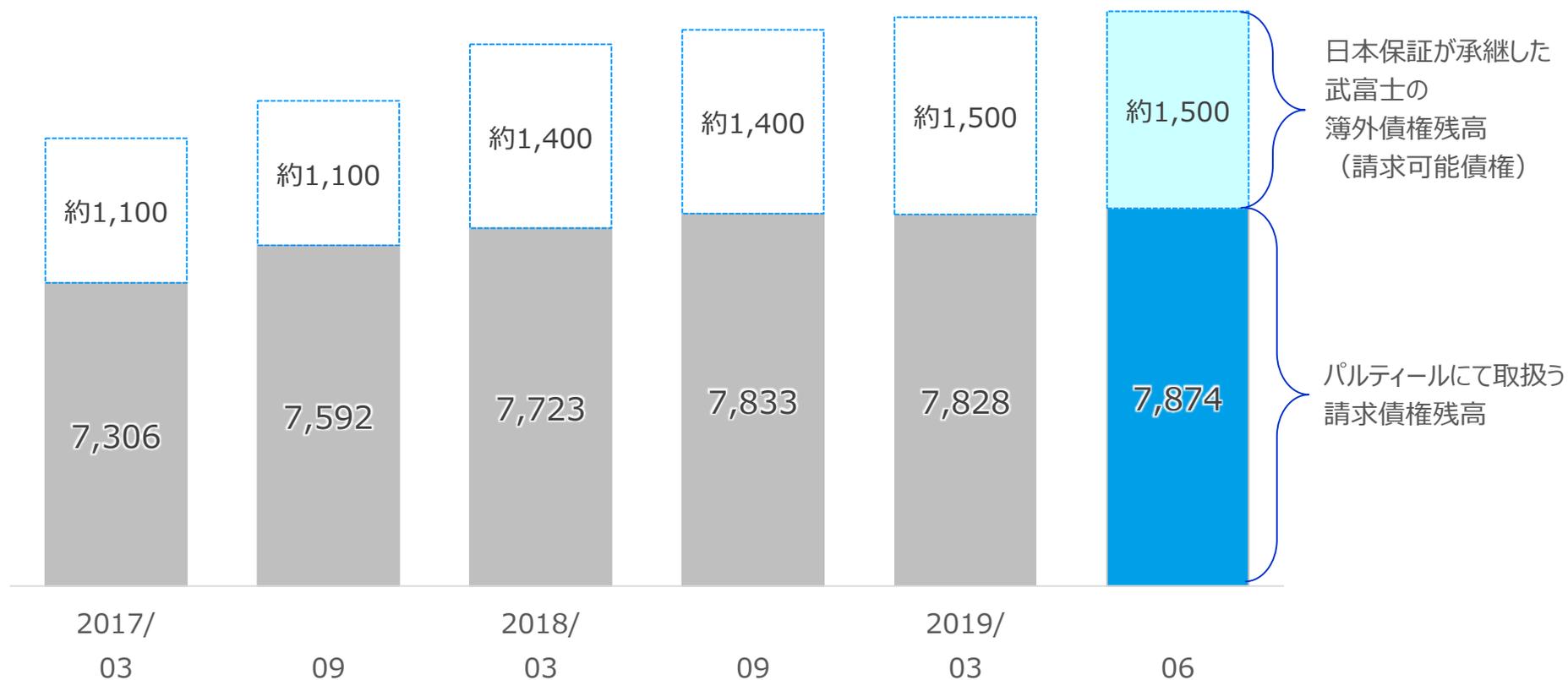


➤ 不良債権の買取は引き続き好調

単位：億円

サービサー事業における請求債権残高

合計
9,000億円超

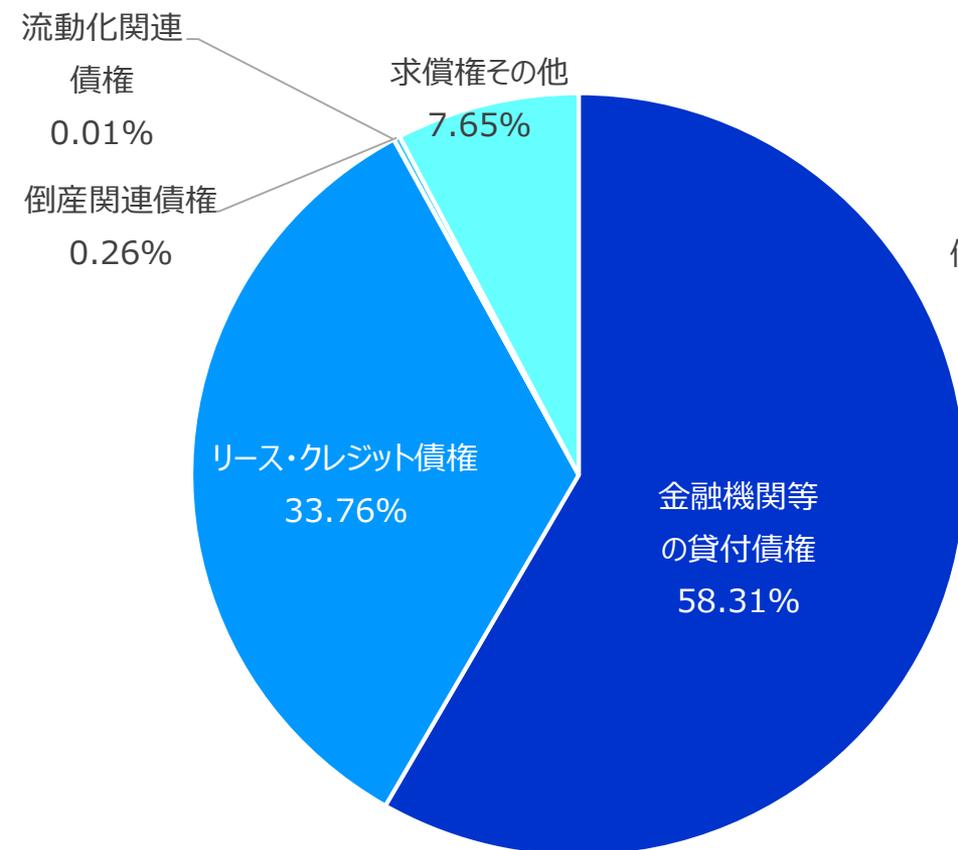


請求債権残高は買取債権および回収受託債権を含む
請求債権残高に一部オンバランス債権を含む

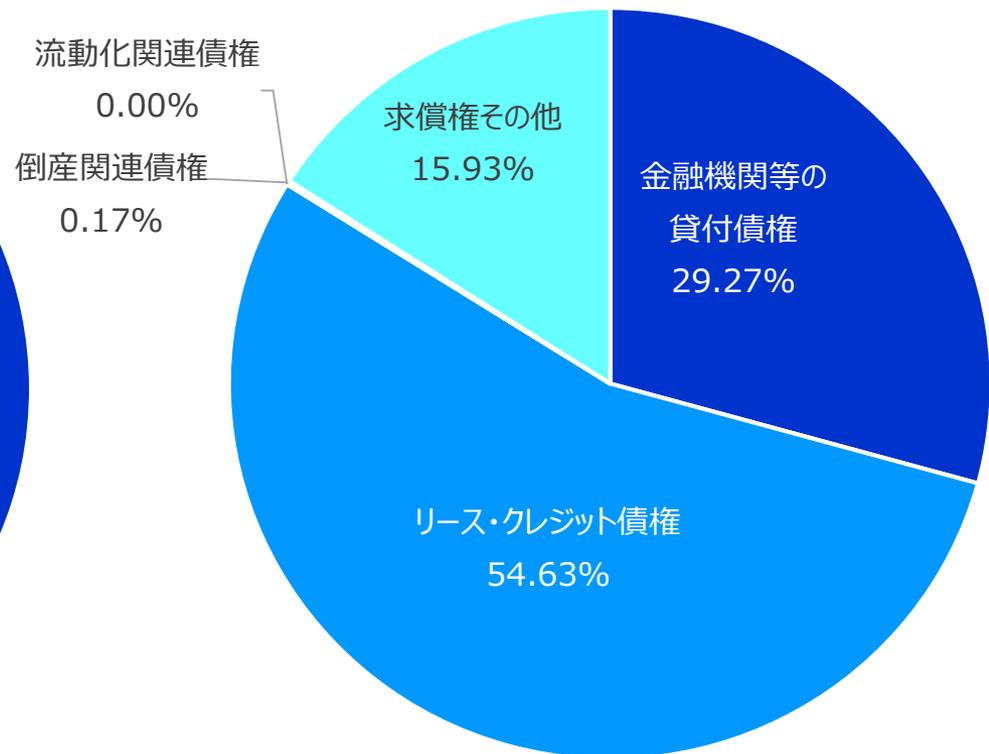
- パルティール債権回収は、リース・クレジット債権が過半数を占める
- 回収に独自の強みを発揮し、引き続き債権の買取回収を推進

サービサーにて取扱う債権数の内訳

業界全体



パルティール債権回収



2. セグメント別業績

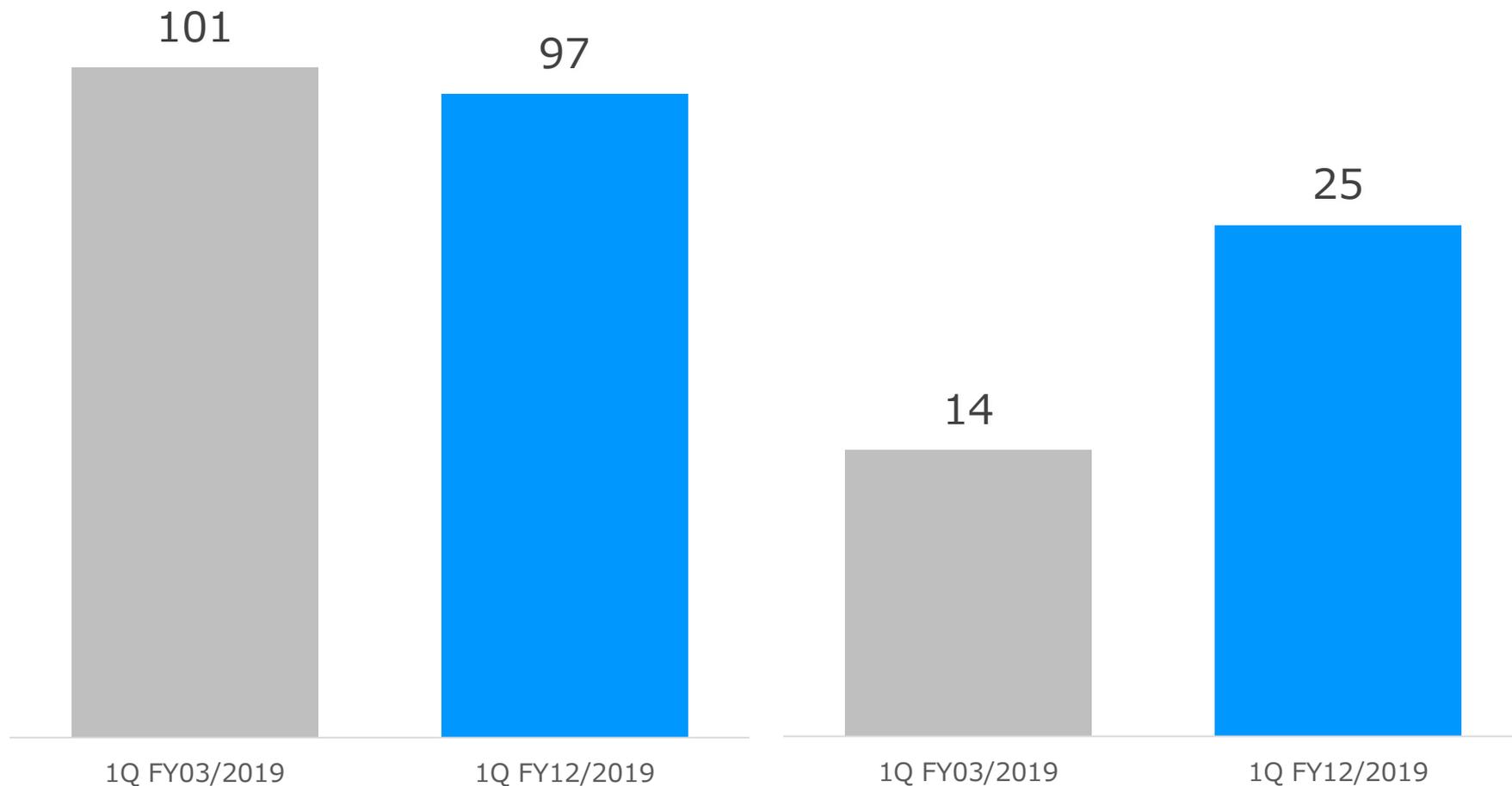
2-2. 韓国及びモンゴル金融事業

- 平均貸出金利の低下により営業収益は前期比減少
- 貸倒引当金繰入額の減少及びNPL売却益の計上により営業利益は増加

営業収益

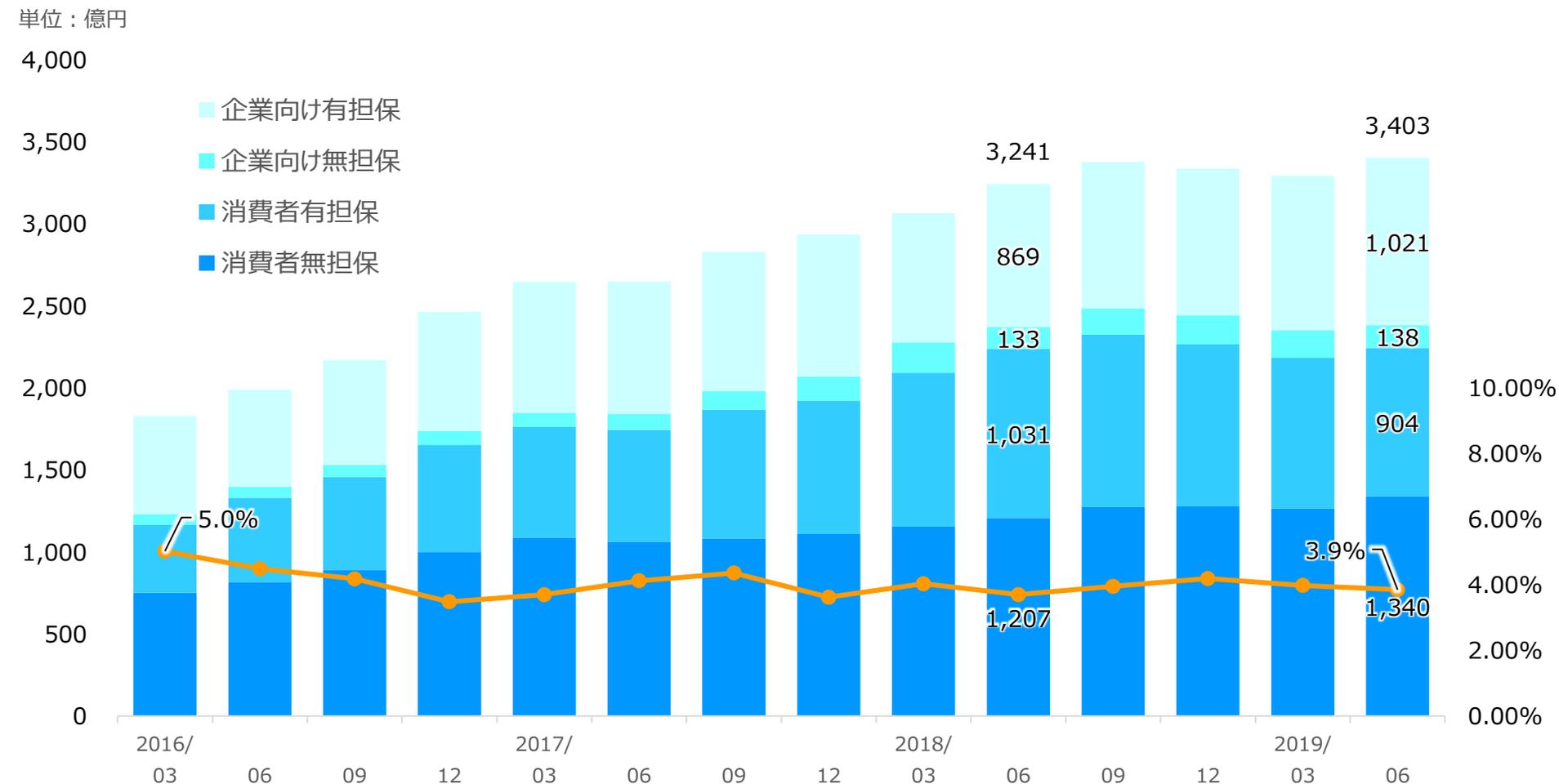
営業利益

単位：億円



➤ 債権の「質」を重視し、安定した貸出資産の維持に努める

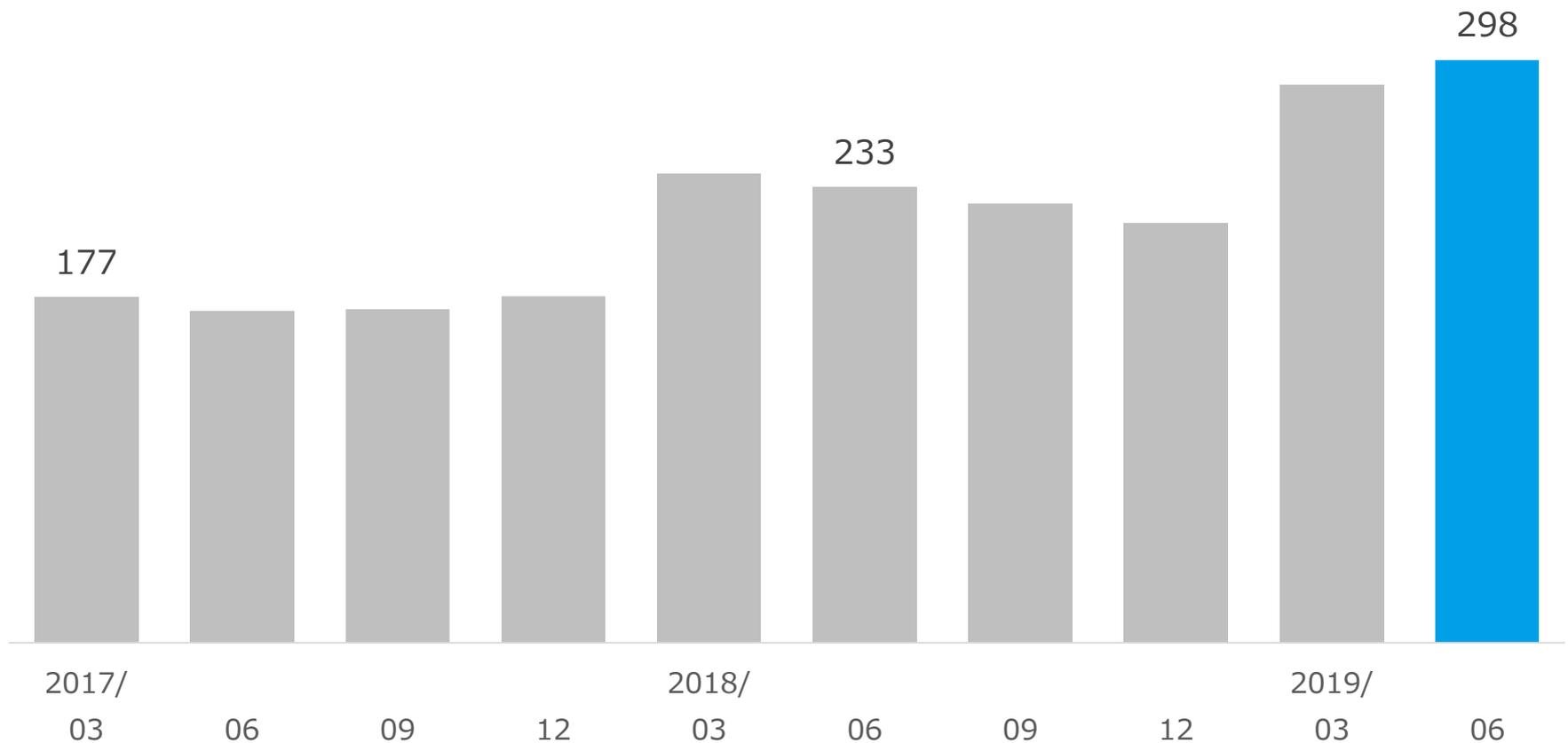
3社合計の貸出資産ポートフォリオと90日以上延滞債権の推移



➤ サービスにおける不良債権買取も順調

単位：億円

TAアセットの請求債権残高



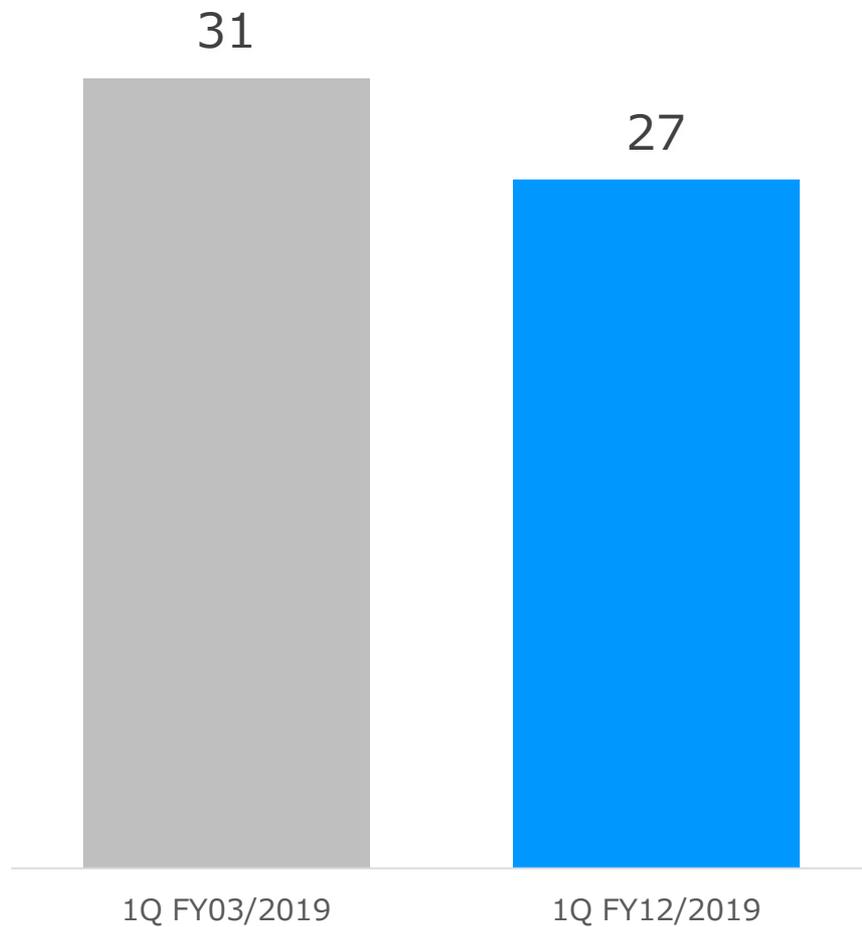
数値は現地通貨に以下のレートを乗じ表示
参考レート：1ウォン=0.0933円（6月末日の決算日レート）

2. セグメント別業績

2-3. 東南アジア金融事業

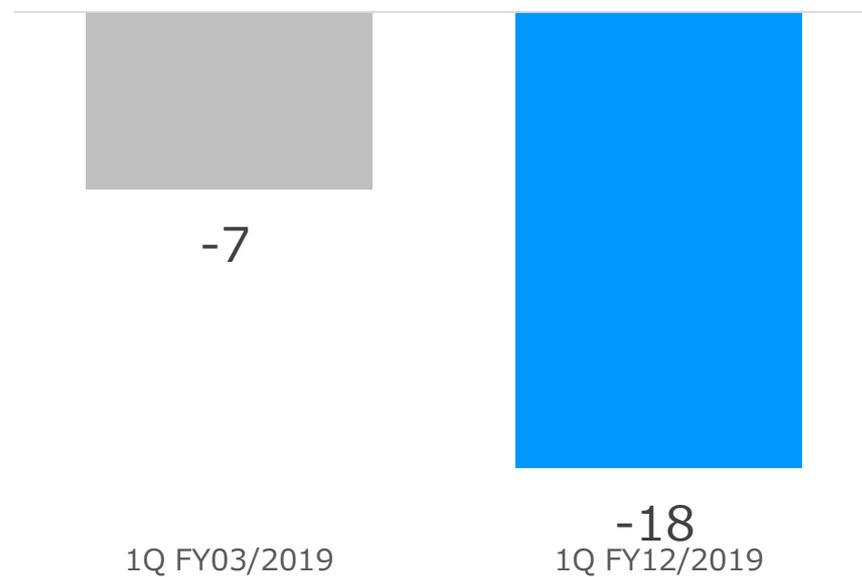
➤ 前年同期比は減収減益

営業収益



営業利益

単位：億円

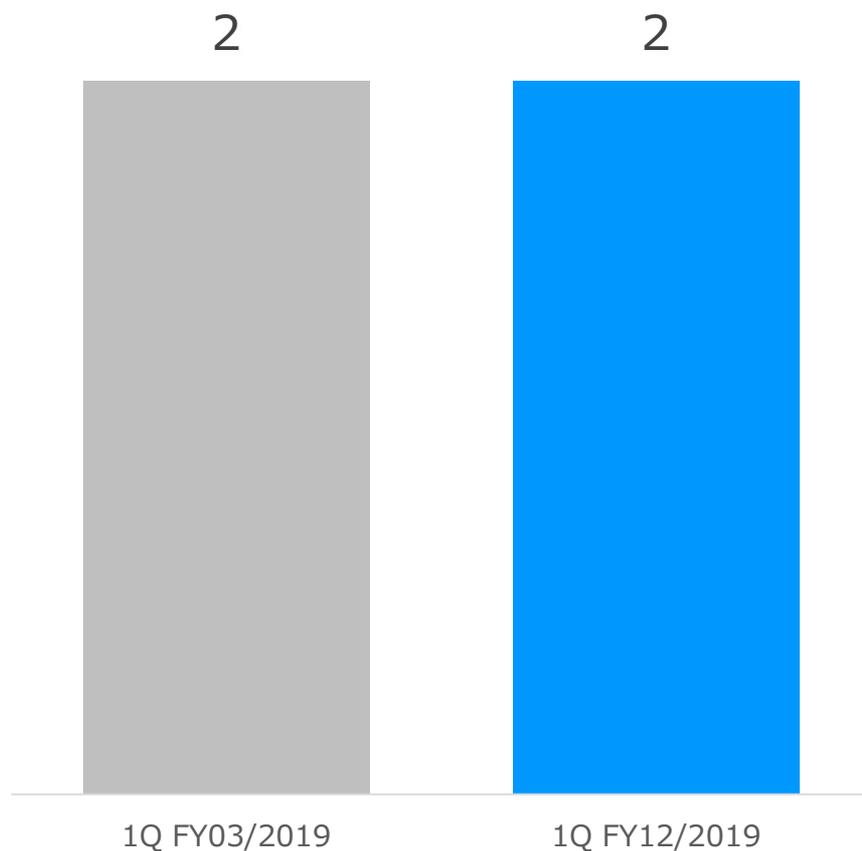


2. セグメント別業績

2-4. 投資事業

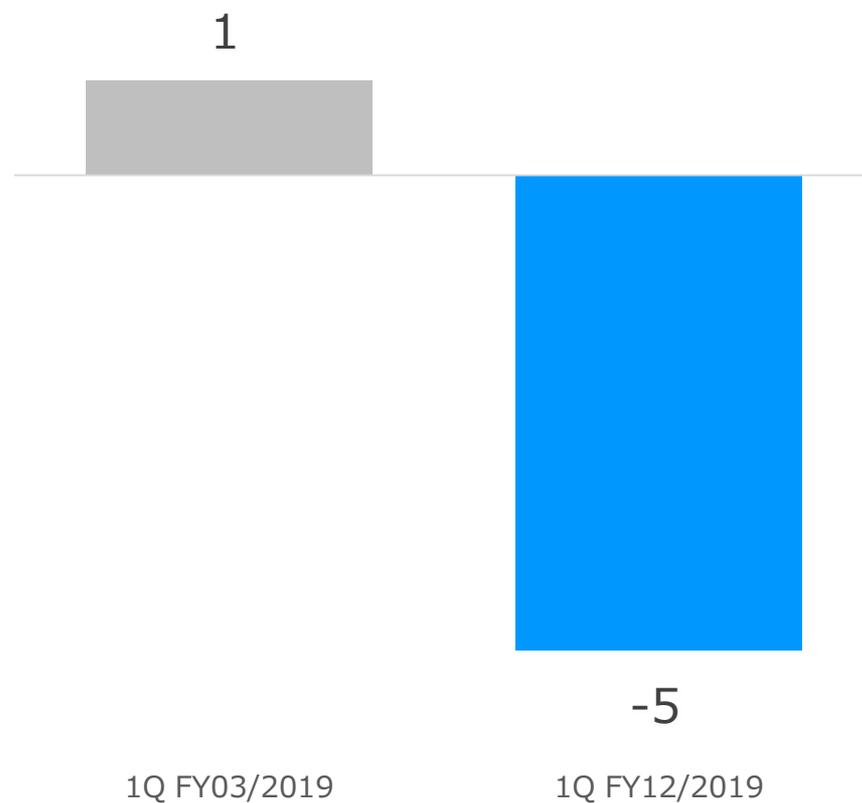
➤ 訴訟費用の増加により販管費が増加

営業収益



営業利益

単位：億円



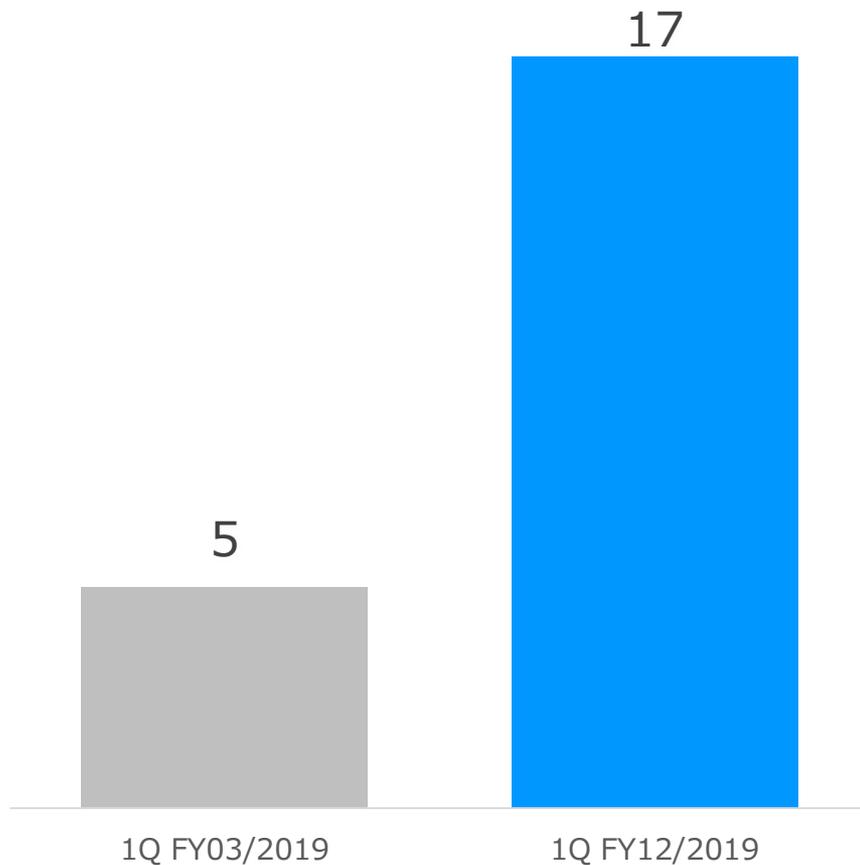
2. セグメント別業績

2-5. 総合エンターテインメント/不動産事業

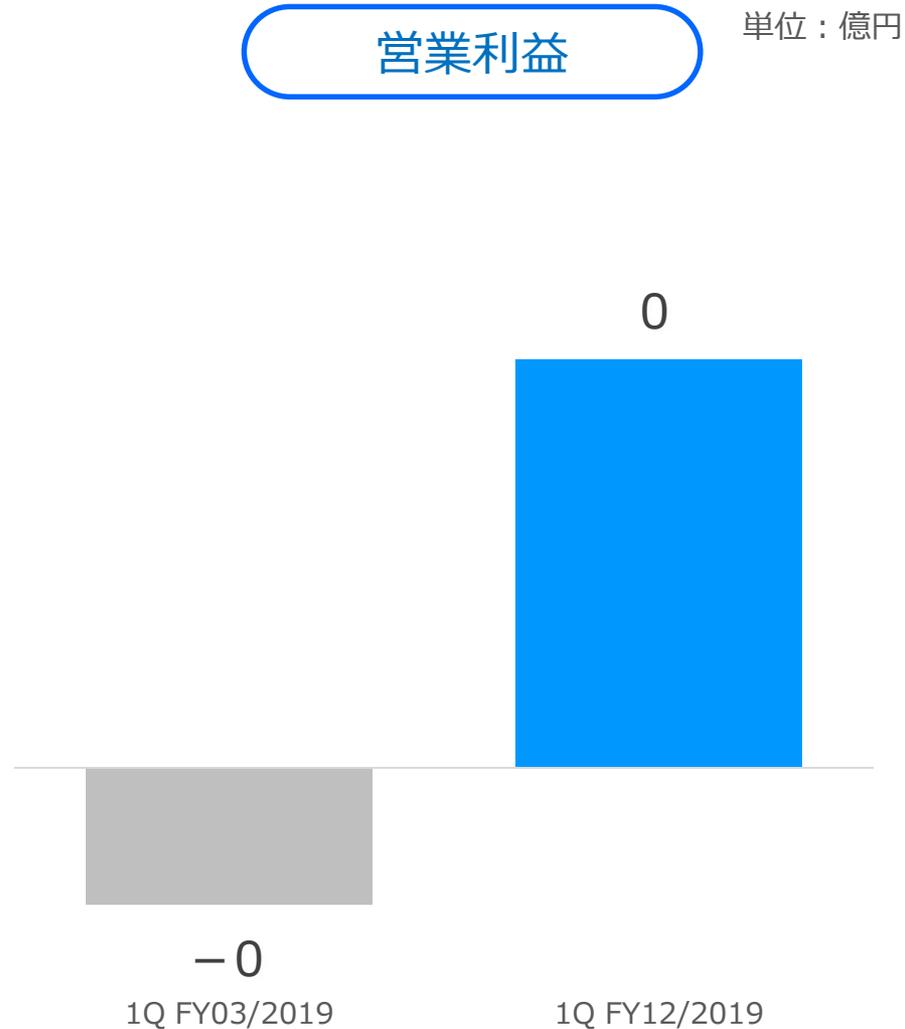
(総合エンターテインメント事業)

➤ オルファスやフーリンラーヂ[※]等のM&Aが収益・利益共に貢献

営業収益



営業利益

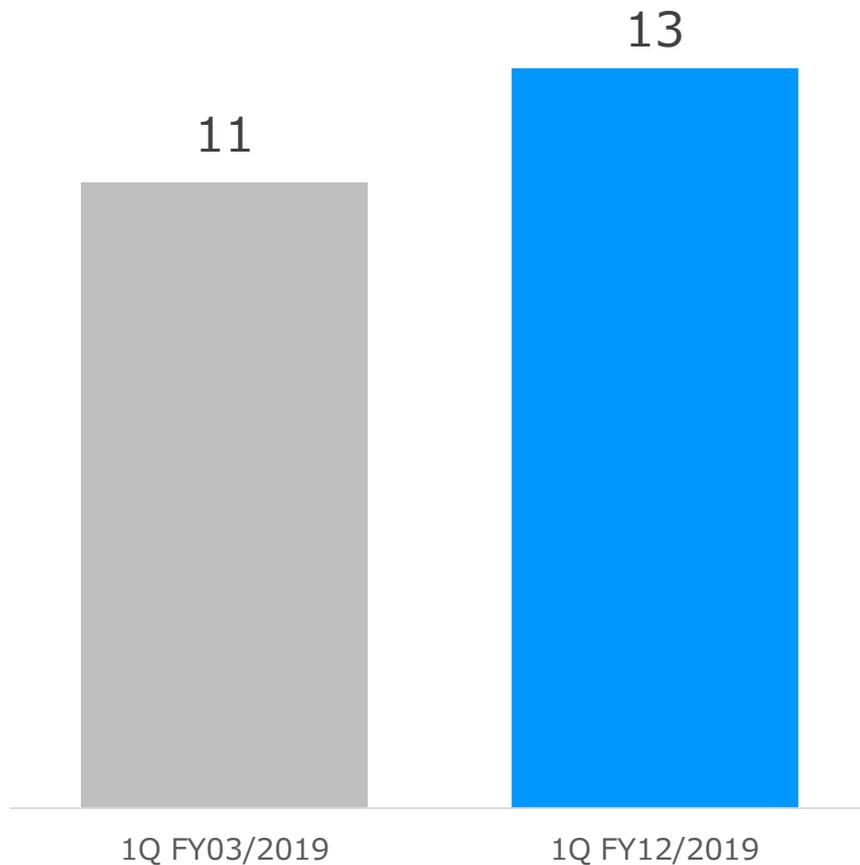


※8月1日付けユナイテッドプロダクションズに社名変更

(不動産事業)

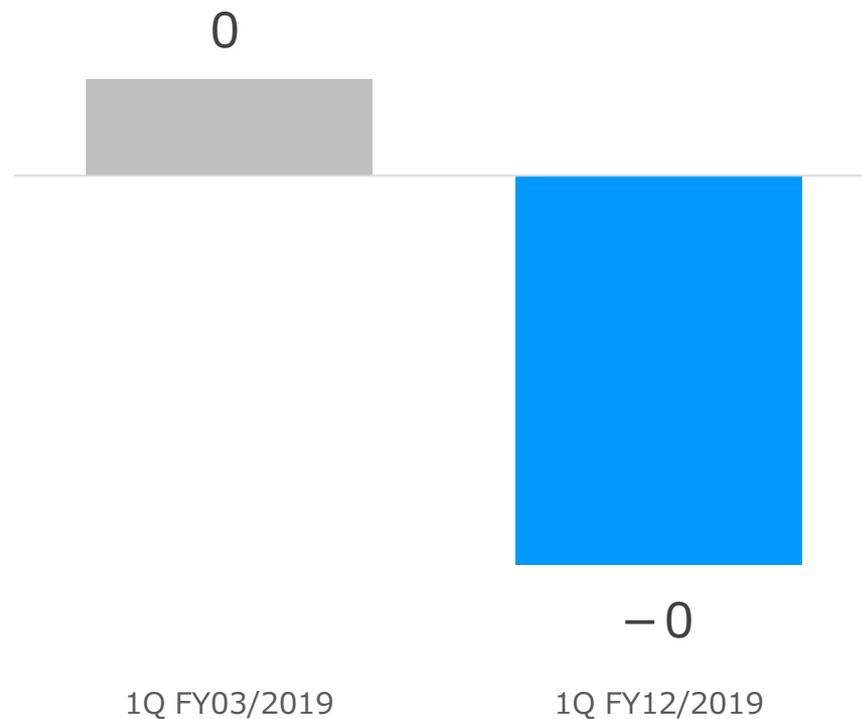
➤ 営業収益は増加、営業利益は売上原価の増加により前年同期比減少

営業収益



営業利益

単位：億円



3. 2019年12月期 連結業績予想

➤ 連結業績予想策定にあたっての前提条件

- 為替レートは、各国進出時から2019年3月末までの平均レートを採用しています。

1 シンガポールドル : 82.63円	1 インドネシアルピア : 0.0084円	1 モンゴルトウグルグ : 0.0437円
1 韓国ウォン : 0.093円	1 USドル : 110.99円	

なお、2019年6月末日の各レートは以下の通りとなっています。

1 シンガポールドル : 79.68円	1 インドネシアルピア : 0.0077円	1 モンゴルトウグルグ : 0.0405円
1 韓国ウォン : 0.0933円	1 USドル : 107.79円	

- 投資事業における、通常発生する損益以外の影響額は反映しておりません。

➤ セグメント別業績予想及び進捗率

セグメント別 営業収益および営業利益

		FY12/2019 着地予想 ※4/1~12/31の9ヵ月間	1Q FY12/2019 実績 ※4/1~6/30の3ヵ月間	進捗率
日本金融事業	営業収益	69億円	23億円	33%
	営業利益	29億円	10億円	34%
韓国及びモンゴル金融事業	営業収益	289億円	97億円	34%
	営業利益	33億円	25億円	76%
東南アジア金融事業	営業収益	129億円	27億円	21%
	営業利益	-17億円	-18億円	-
投資事業	営業収益	10億円	2億円	20%
	営業利益	-6億円	-5億円	-
その他/連結調整	営業収益	144億円	31億円	22%
	営業利益	-38億円	-7億円	-
合計	営業収益	643億円	182億円	28%
	営業利益	0億円	4億円	-

4. 事業別 今後の展望について

常務取締役 執行役員 財務部長

熱田 龍一

➤ Jトラストの魅力を再確認

- ✓ 銀行・ノンバンク・サービサーの3つを「コア事業」とした金融事業がメイン
(進出国：韓国・シンガポール・インドネシア・モンゴル)
- ✓ 強固な財務基盤
 - 総資産：6,240億円
 - 自己資本^{※1}：1,096億円
 - 自己資本比率^{※2}：16.3%
- ✓ 前期、潜在的なリスクに備えて貸倒引当金を計上し、今後の追加損失リスクを最小限に抑制
- ✓ 新たにカンボジアの優良銀行を迎える予定
- ✓ 各地域の経営体制を刷新し、ベストな布陣へ

※1 株主資本：親会社所有者持分

※2 自己資本比率：親会社所有者帰属持分比率

➤ Jトラストグループの10年の成長を再確認

✓ 2008年のTOB以降、業容が拡大

2008年以降の成長

2008年3月末

2019年6月末

資産規模

121億円



6,240億円

従業員数

81人



3,443人

会社数

2社



35社

進出国

1ヶ国



5ヶ国

➤ 7%近いGDP成長率を誇るカンボジアにおいて商業銀行を取得予定

- ✓ カンボジアの商業銀行42行中、ANZR銀行はTOP10に入る資産規模*
- ✓ 2018年度の営業利益31億円と、既に高収益を計上している銀行

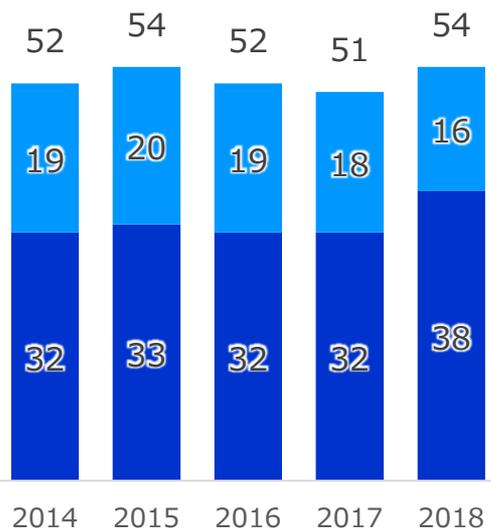
ANZ ROYAL Bank 財務ハイライト

単位：億円

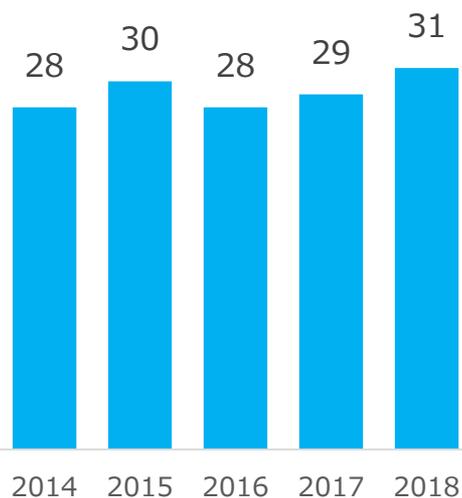
利益の推移（5ケ年）

営業収益

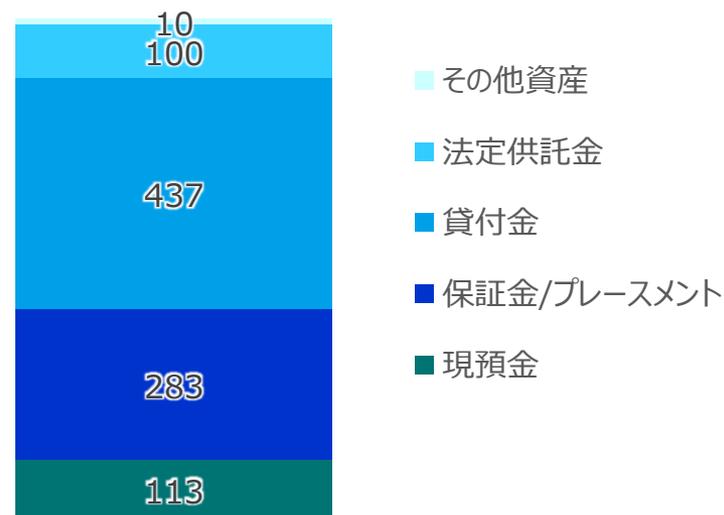
■ 純金利収入 ■ その他の収益



営業利益



資産943億円の内訳 (2018年12月末)



※カンボジア中央銀行 Annual Report 2018より
財務ハイライトはANZ ROYAL BANK Annual Report 2018より
参考レート：1USD = 107.79円（6月末日の決算日レート）

➤ Jトラストより銀行経営のエキスパートを派遣

- ✓ ANZ Royal Bankの強みは法人取引
- ✓ ANZ Royal Bankの実績に当社グループのリテールノウハウを融合
- ✓ カンボジアへの進出が決まれば6ヶ国目となる

明珍 徹



1988年 第一勧業銀行（現みずほフィナンシャルグループ）入行
その後、新生銀行で要職を歴任し、
2015年Jトラストグループ入り

黒川 真



1979年 三和銀行（現三菱UFJ銀行）入行
その後、外資系証券会社を経て、
2012年Jトラストグループ入り

 J Trust Royal Bank

(※商号・デザインはイメージ)



➤ 日本金融事業：引き続き、保証商品の多角化を進める

- ✓ 新たな保証商品としてクラウドファンディング商品の保証を開始
日本保証の強みである不動産担保ローンの保証商品を2本リリース
- ✓ 海外不動産担保ローンの保証提携先銀行も増え、計3行に

適用中 満額成立

SAF日本保証不動産ローンファンド1号

日本保証 × SAMURAI証券

目標利回り (税引前)	運用期間	募集上限金額
5 %	11.5ヶ月	1,300万円

- 2019年5月10日募集開始
- 募集上限額：1,300万円 (満額成立)
- およそ40分で完売

適用中 満額成立

SAF日本保証不動産ローンファンド2号

日本保証 × SAMURAI証券

目標利回り (税引前)	運用期間	募集上限金額
4 %	22.9ヶ月	2,300万円

- 2019年6月4日募集開始
- 募集上限額：2,300万円 (満額成立)
- およそ10分で完売



➤ 総合エンターテインメント事業：事業の整理により効率経営を進める

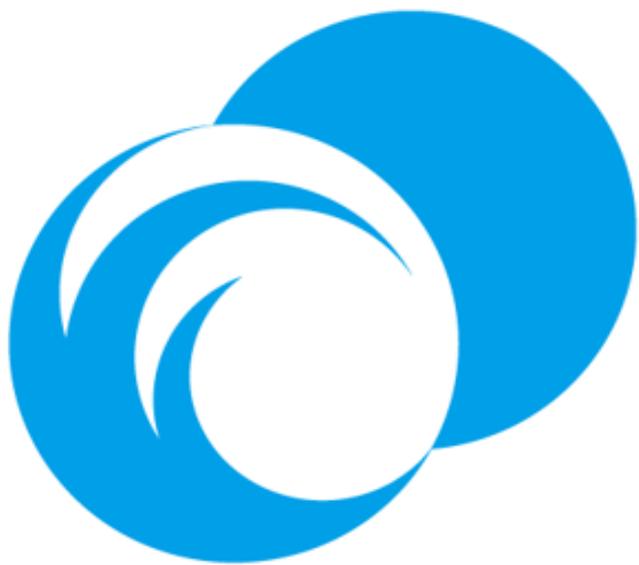
- ✓ 7月1日付け オルファスとキースタジオを統合
- ✓ 8月1日付け キープロダクションとフーリンラージを統合し商号を変更





東南アジア金融事業（インドネシア）の 現状と今後の成長戦略

代表取締役 専務執行役員
千葉 信育



荒波に

感謝

▶ 不良債権の処理により貸倒引当金を計上

- ✓ Jトラスト銀行インドネシア（BJI）：アセットの減少による収益減
- ✓ Jトラストインベストメンツ（JTII）：BJIより移管された不良債権への貸倒引当金を計上

東南アジア金融事業 会社別サマリー

単位：億円

1Q FY12/2019	Jトラスト銀行	JTインベストメンツ	JTオリンピンド	セグメント合計
営業収益	22	0*	4	27
営業費用	1	44	3	48
うち、貸倒関連費用	-29	44	1	15
販売費及び一般管理費	10	0	3	14
その他の収益	16	0	0	17
その他の費用	0	0	0	0
営業利益	26	-45	-2	-18

参考レート：1ルピア=0.0077円（6月末日の決算日レート）

※JTインベストメンツの営業収益は67百万円

個社別の数値は財務データに掲載しています。 https://www.jt-corp.co.jp/ir/library/ir_data_00/

✓ 今期は「土台作り」を実施

- ① 人材の能力不足
- ② リスクマネジメント
- ③ ITシステム



I. 人材、組織の再構築

- グループ内の精鋭たちをインドネシアへ派遣

II. リスクマネジメントの強化

- リスクマネジメント体制および審査部門の強化

III. ITの改善

- モバイル banking の開設 デジタルバンキングを目指した取組み

IV. COF（コストオブファンズ：調達コスト）の改善

- 預金金利の圧縮及び適切な預金（量）のコントロール

+ 優良資産の積上げ

- JTOを中心とした資産の積上げに加え、日系/国営/財閥系・大手銀行系企業への貸付や社債への投資

1. 人材、組織の再構築

➤ 1. 人材・組織の再構築 / マネジメントの強化

- ✓ 土台作りのため、韓国で破たんした銀行を再生させた精鋭たちをインドネシアへ派遣
- ✓ その他、審査や営業、リスクマネジメントなど、各セクションにおけるスペシャリストを派遣



千葉 信育
代表取締役専務 執行役員
東南アジア金融事業担当



深代 律雄
代表取締役社長



ジョ・ウォンジョン
取締役
IT担当



安松 敏雄
執行役員
審査担当



小林 正佳
執行役員
リスクマネジメント担当



松岡 和幸
代表取締役社長



神々 輝彦
副社長
経営管理担当



楠生 佳彦
代表取締役社長



高山 知英
取締役
経営管理担当



足立 伸
専務取締役 執行役員
PT Bank Jtrust Indonesia Tbk.
President Commissioner

2. リスクマネジメントの強化

✓ 日本人スペシャリストを部門ヘッドに据え、改善に取り組む

リスクマネジメント：「けん制機能」と「見える化」でリスクを早期発見し、モニタリングを強化と継続する事で、将来リスクを未然に防止

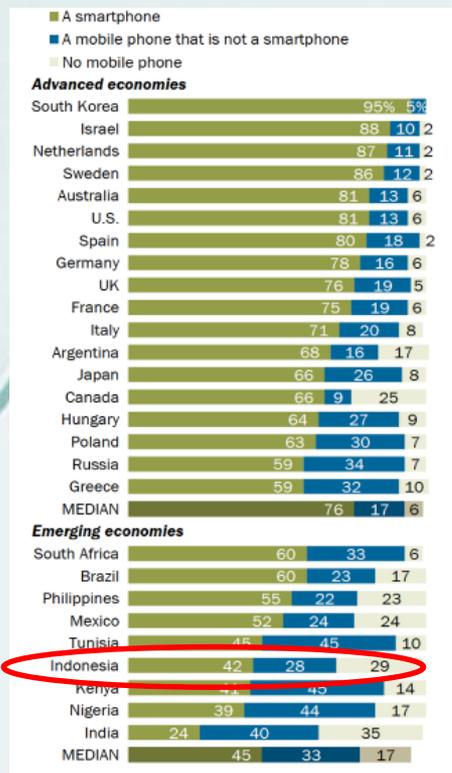
審査：既存債権の見直し、担保カバー率のアップ、ジョイントファイナンスのスキームを活用したリスクの分散

カテゴリ	問題点	今後の改善策
リスクマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ガバナンス 問題発生後の対応が遅く、未然防止もなされていない 	<ul style="list-style-type: none"> ● 全店にクオリティコントロール担当者を順次設置し、常時モニタリング ● リスクを特定、計量（はかる）し、改善するプロセスを徹底 ● 他部署の問題発生についても関知したら報告する体制を構築 ● 日々のレポート、リスク管理委員会の定着化によるモニタリングの強化 <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">リスクを「見える化」することで、早期解決が可能 将来のリスクも予測し、未然に防止可能</p>
審査	<ul style="list-style-type: none"> 甘い審査体制 低い担保カバー率 	<ul style="list-style-type: none"> ● 一旦ハイリスクゾーンの貸付をストップ (国営/財閥、銀行等の優良企業の貸付のみ継続) ● 全債権、契約満了時に更新するかしないかを基準を設け判断 ● 担保カバー率をアップさせる ● BJIとJTOがおこなうジョイントファイナンスのスキームを活用 <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">リスクを最小限および分散させる ポートフォリオの多様化</p>

3. ITの改善

- ✓ 中央銀行より2019年8月2日付けにて承認を得る 8月中に一般顧客へ告知を開始
- ✓ 効果的に集客、普通預金を集めることで預金コストの低下を見込む

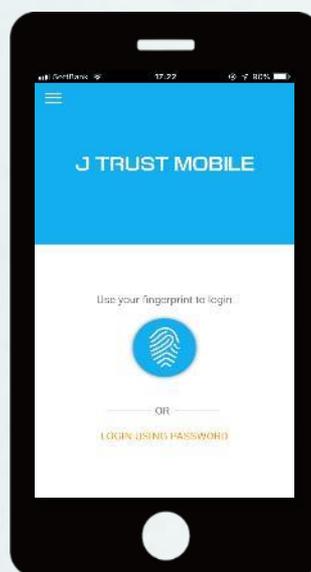
インドネシアのスマホ普及率は42%
単純計算でも1億人以上



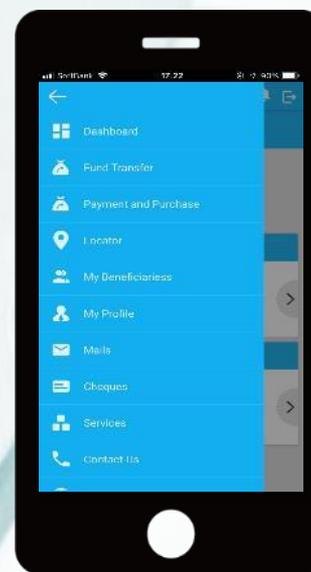
アイコン



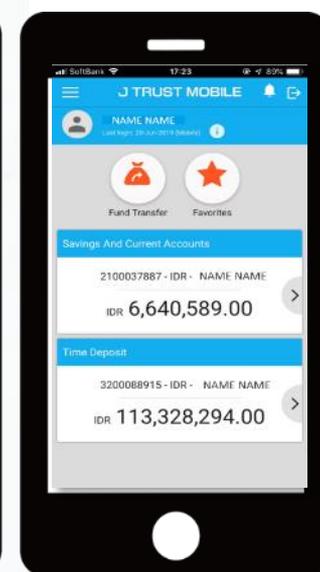
指紋認証ログイン画面



メニュー画面



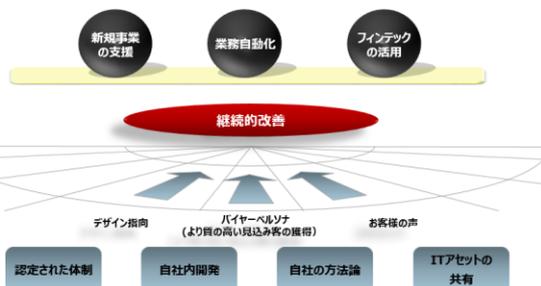
残高表示画面



- ✓ インドネシアのような広大な土地において、非対面での口座開設は大きな魅力
- ✓ 銀行口座を持たない人々に対し、最大のアプローチ手段に

Jトラスト銀行インドネシアの3年間のデジタル化基本計画

Jトラスト銀行インドネシア (BJI) は銀行のデジタル化をうまく成し遂げるためにビジネスモデル及び業務のプロセスを再編している。



統合プラットフォーム

企業価値の向上およびコスト削減、シナジーを発揮するために、各種メインシステムを一つのオンラインバンキングプラットフォームに取り組み。

1年間の計画
お客様利便性および業務の効率性を向上させるため、定期的にプラットフォームを更新する。



サプライ・チェーン・ファイナンス

ファイナンスサービスがお客様の手元に届くまで...



現在、サプライ・チェーン・ファイナンスに関する自社のビジネスモデルを構成している。

1年間の目標
電子手形サービスを利用できる携帯アプリを開発し、中小企業 (SME) 向けに対して、電子手形の形式でサービスを提供する。

オンライン口座開設

韓国では個人情報を識別するインターネット上のプラットフォームを提供しているが、今後のプラットフォームをカスタマイズし、導入する予定。

1年目の計画
インターネット上の識別プラットフォームを通じて口座開設やローンの申し込みなどが可能に。



電子マネー「JT pay」

インドネシアのお客様志向やライフスタイルに配慮した、電子マネーのデジタルマーケティング戦略を策定中。

2年間の計画
さまざまなポイントサービスや利便性について、サービスレベルの向上・発展を計画。

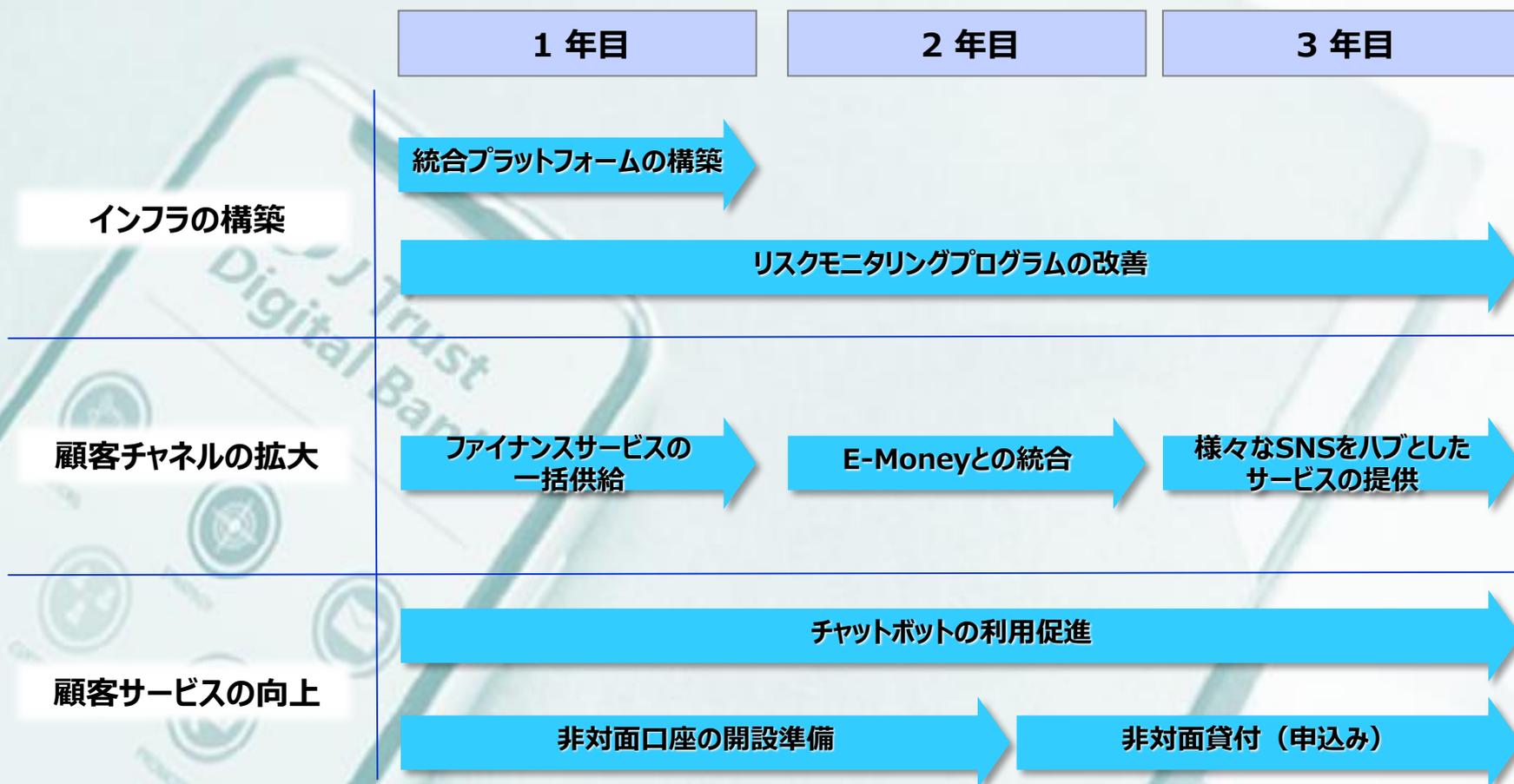


チャットボットの進展

現在、AIプラットフォームを使ったチャットボットはカスタマーデータの集積を行っている。

2年間の計画
チャットボットを通じて、お客様は残高照会や請求書の支払、送金または口座開設などの金融サービスを使うことが可能になる。

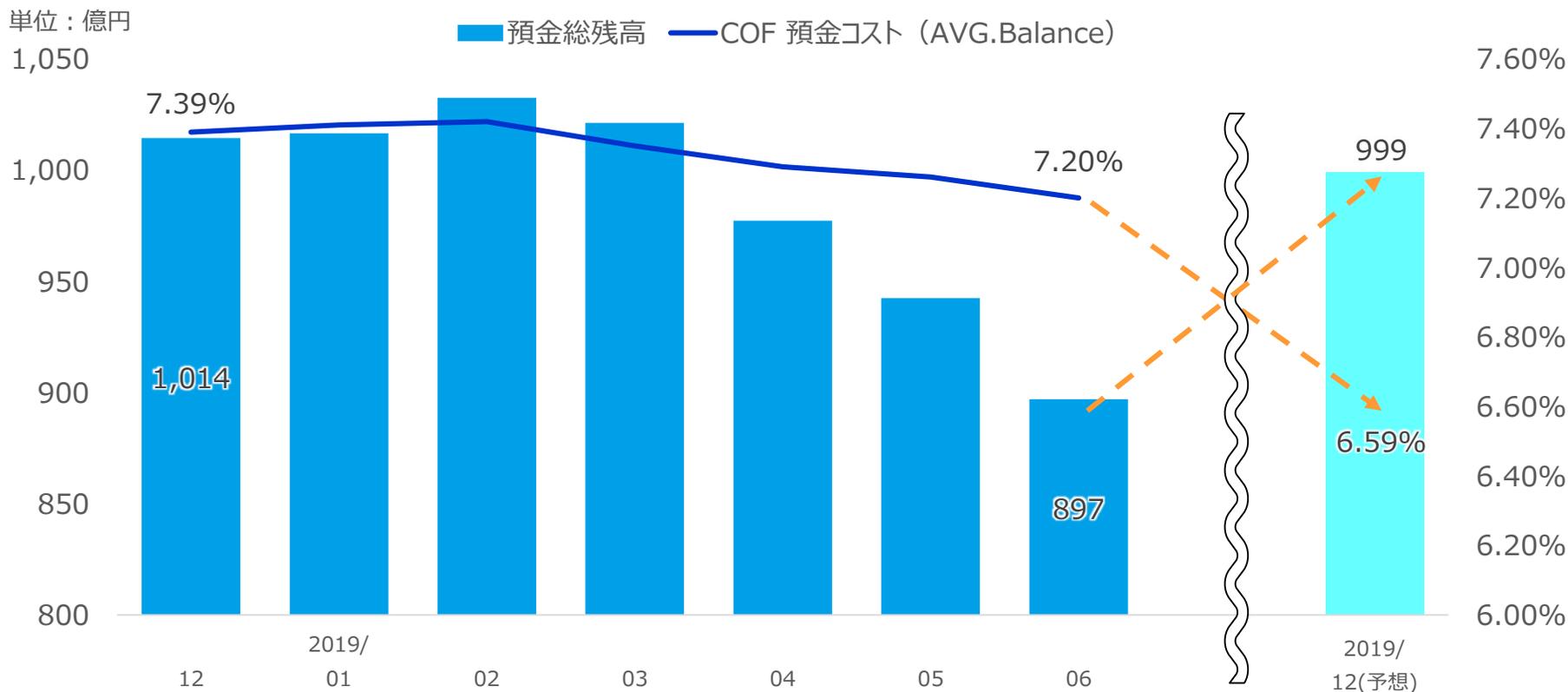




4. COFの改善

- ✓ モバイルバンキング導入⇒預金額の増加⇒普通預金比率の上昇⇒**COFの低下**
- ✓ 預金額が減少しているのは、貸出抑制の中で預金額をコントロールしているため（コスト削減）

預金残高とCOF（預金コスト）の推移



※数値は現地通貨に以下のレートを乗じ表示
 参考レート：1ルピア=0.0077円（6月末日の決算日レート）

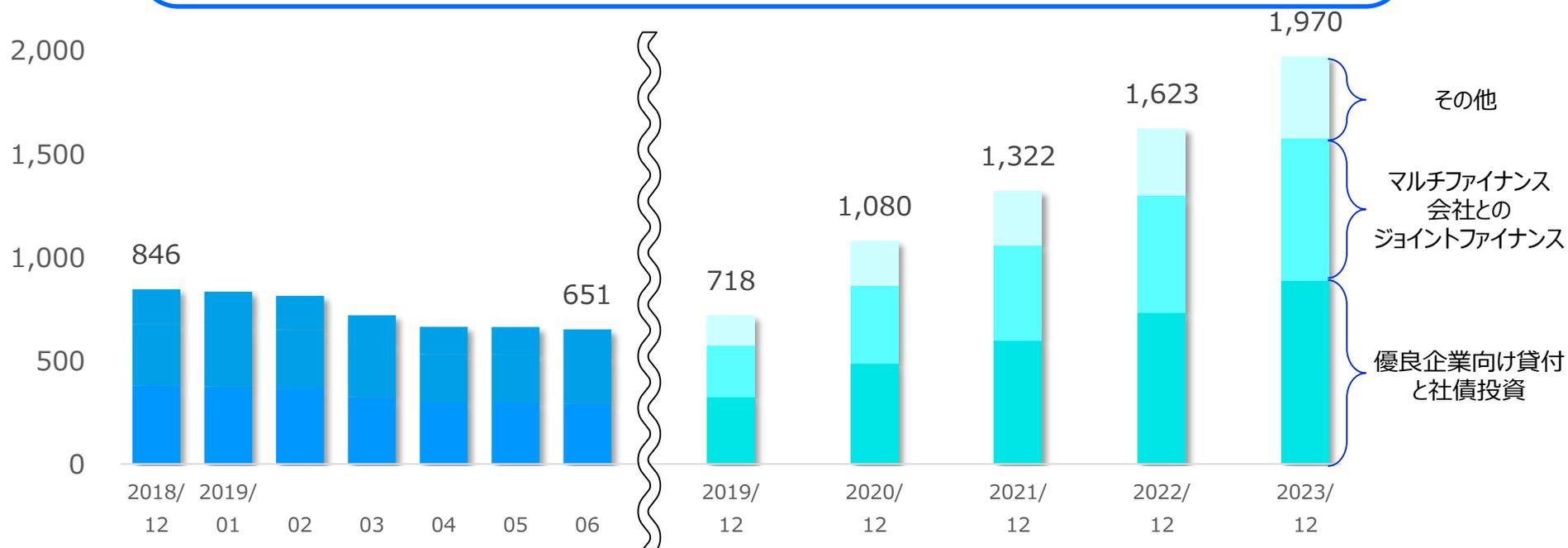
+ 優良資産の積上げ

▶ 優良資産の積上げ

- ✓ 先ず不良債権を、予備軍を含めて圧縮
- ✓ JTOとのジョイントファイナンスを活用し、換価性のある有担保ローンを増加（車・農機具等）
- ✓ 日系企業や国営企業、財閥系・大手銀行系企業など信用力の高い企業への貸付や社債への投資

単位：億円

優良資産の積上げイメージ



※数値は現地通貨に以下のレートを乗じ表示
参考レート：1ルピア=0.0077円（6月末日の決算日レート）

5. JTO/JTIIのミッション

- ✓ Jトラストオリンピンド：車/農機具など「換価性」のある担保ローンを大きく積上げ
- ✓ Jトラストインベストメンツ：BJIより移管された債権の回収

J TRUST BANK

銀行業



J TRUST OLYMPINDO Multi Finance

マルチファイナンス事業



J TRUST INVESTMENTS Indonesia

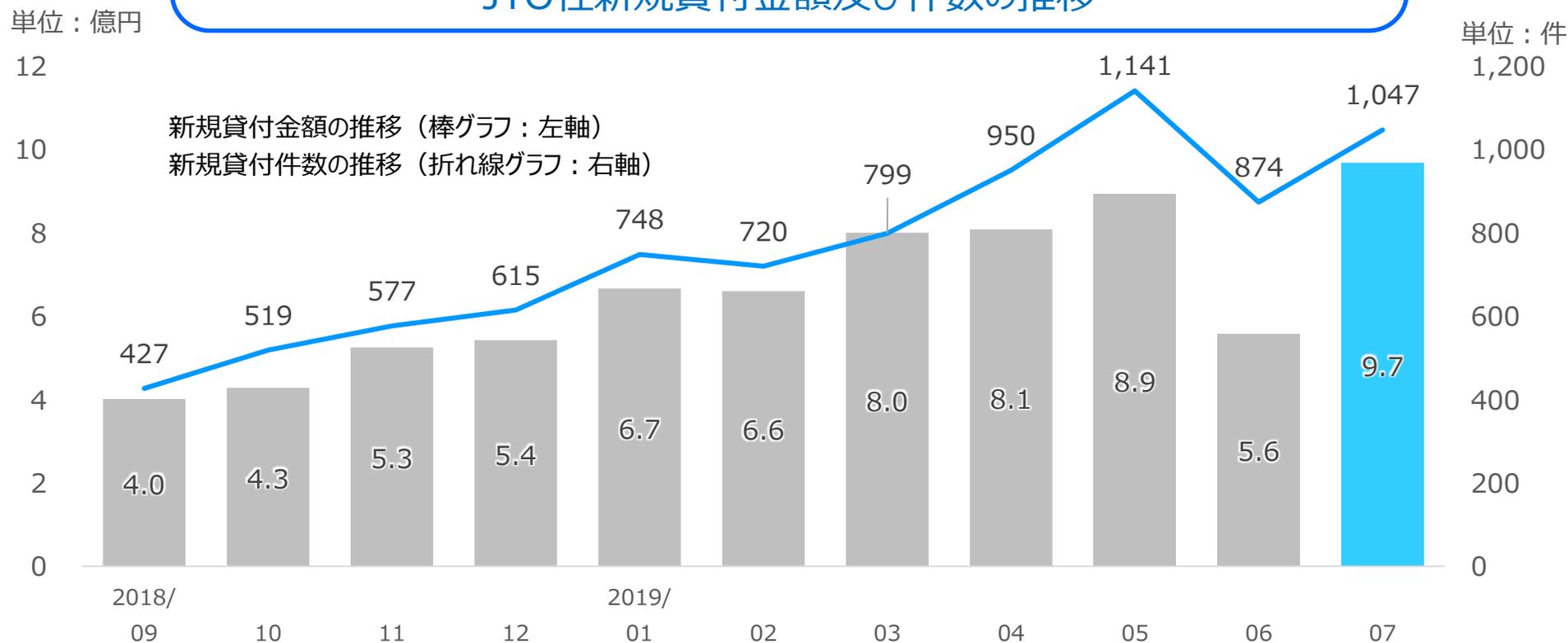
サービサー事業



▶ JTOはBJIとのコラボレーションにより残高増を目指す

- ✓ 2019年6月はレバラン休暇によるディーラーの長期休暇の影響で一旦減少するも7月は5月を大きく上回り、記録更新中
- ✓ ディーラーへのアプローチを強化してさらなる拡大を図る

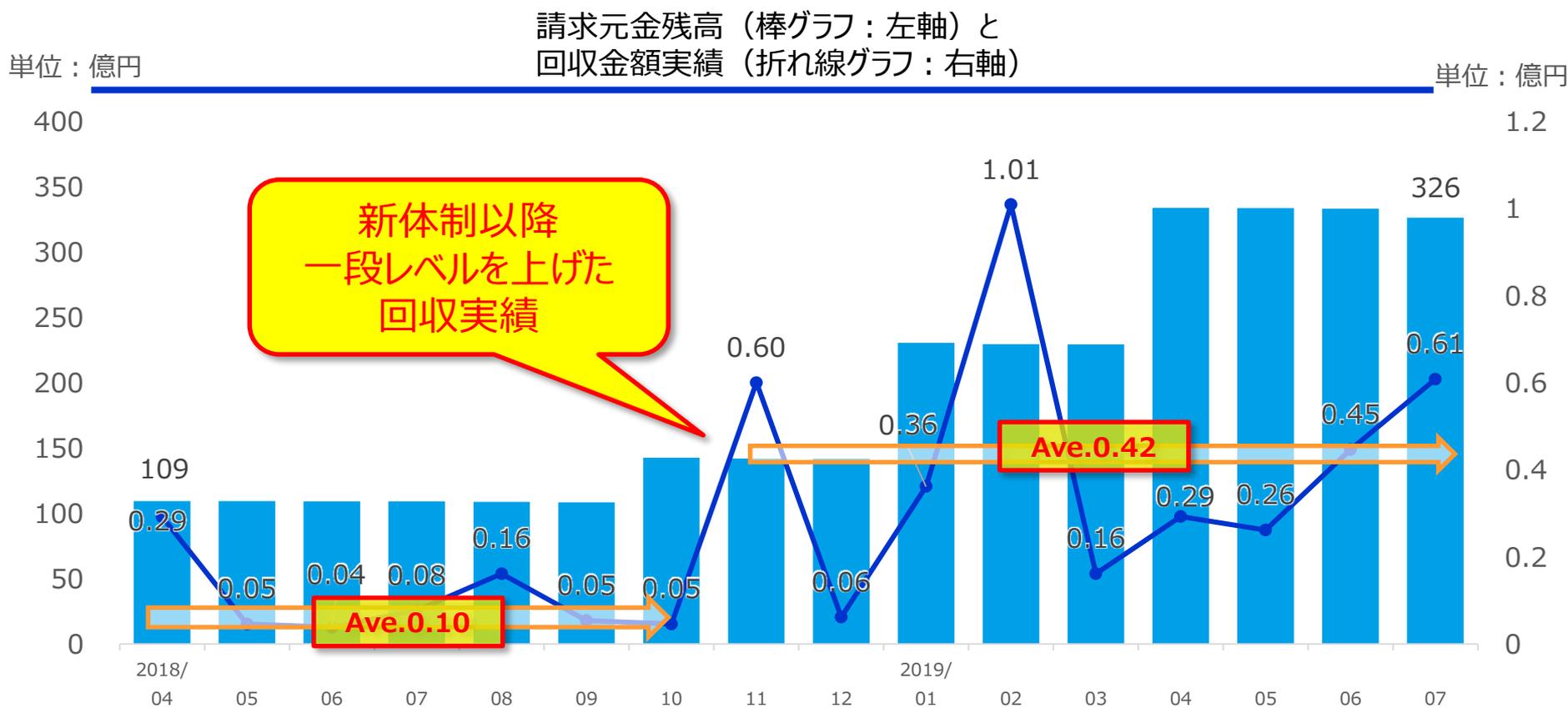
JTO社新規貸付金額及び件数の推移



※数値は現地通貨に以下のレートを乗じ表示
参考レート：1ルピア=0.0077円（6月末日の決算日レート）

➤ JTII立ち上げから3年半で蓄積したノウハウを活用し、回収拡大を図る

- ✓ 専門の債権回収業者の不足、業界形成がこれからのインドネシア市場における先行者利益（収益機会）の獲得
- ✓ 日本・韓国で培ったノウハウも融合させ、回収拡大を図る

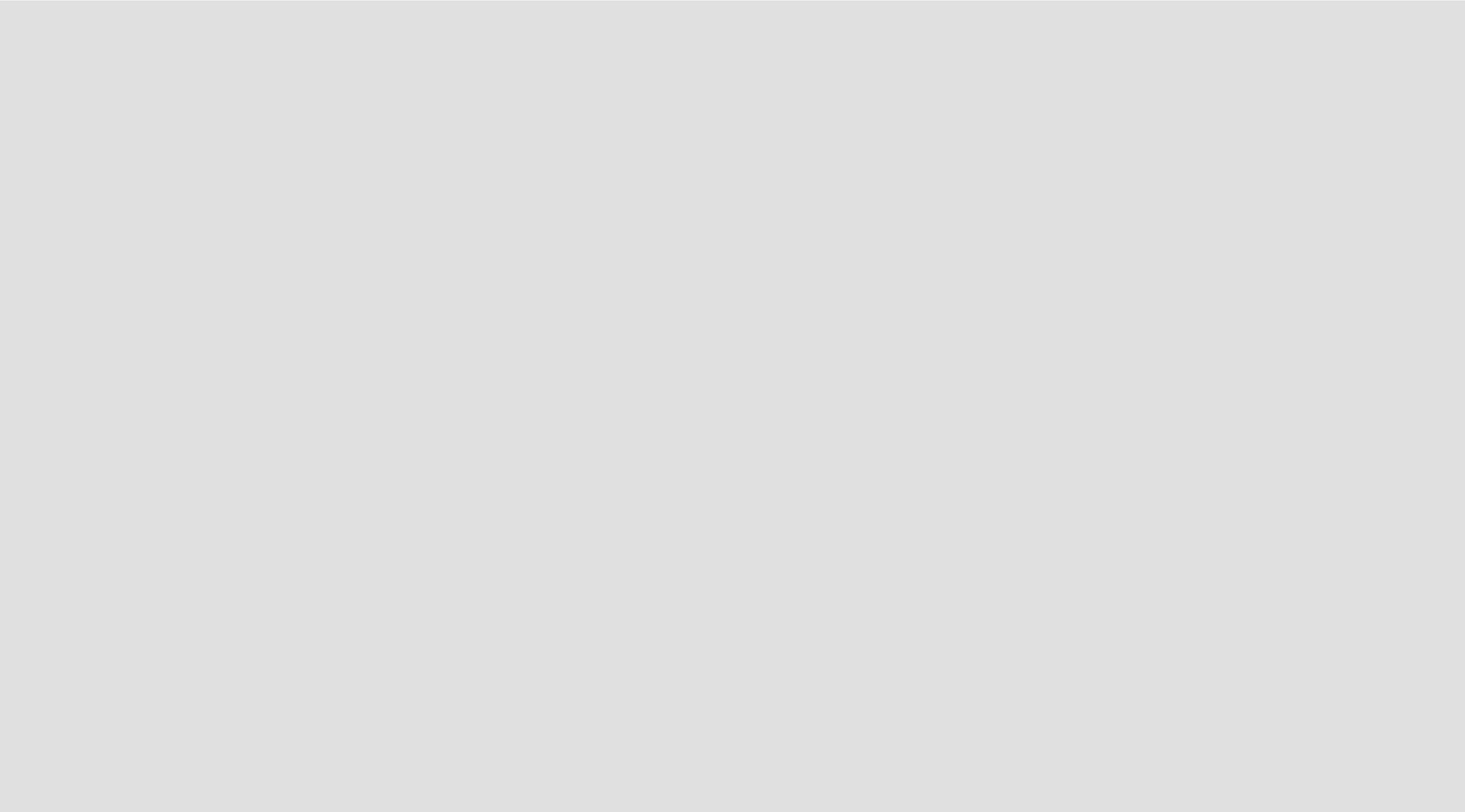


※数値は現地通貨に以下のレートを乗じ表示
参考レート：1ルピア=0.0077円（6月末日の決算日レート）

- ✓ 自己資本の拡充
- ✓ 貸出の出来る優良な客先がどのくらいあるのか？
- ✓ 法的安定性／外国人規制が強い／一貫性がない判決／インドネシアがどう改善、成長していくか？



質疑応答



ありがとうございました

